



毎年恒例の新春スポーツイベント「ニューイヤー駅伝(第64回全日本実業団対抗駅伝競走大会)」が元日に開催されました。

当社陸上部は九州地区予選を4位で通過し、30年連続42回目の出場を果たしました。今大会は好天に恵まれて、大会記録が更新される高速レースとなりました。

当社チームは序盤から8位入賞圏内でレースを進め、最終7区で当社チームを含め6チームで6位を争う混戦となりましたが、惜しくも入賞に届かず11位でフィニッシュしました。今回は若手を中心にして挑んだ中でいくつか課題も残りましたが、個々の選手の成長が感じられる内容でした。

2020年シーズンは8位入賞をチーム目標としてさらなる強化を図ってまいりますので、今後とも安川陸上部に温かいご声援をよろしくお願いいたします。

レース短評

1区…高橋選手

スタートからハイペースでレースが進む。集団でうまく走るが、スパートに対応できずに先頭から37秒差の20位で2区へ。

2区…トゥル選手

タスキをもらって猛スピードで前を走る選手を次々と抜き去り、区間2位の快走で5位まで順位を押し上げ3区へタスキリレー。

3区…野村選手

スピードランナーが集結する3区。前半から積極的に走るものの、後半は疲れが出て我慢の走り。順位を落としたものの粘りの走りを見せ12位でタスキリレー。

4区…古賀選手

各チームからエースが集う4区。昨年7区で区間賞を獲得し、力と自信をつけた古賀選手がダイナミックな走り力で力走。順位を2つ上げ10位で5区へ。

5区…大畑選手

ルーキーの大畑選手。積極的に集団を引っ張り堂々たる走り一人で抜き9位で6区へ。

6区…林選手

5年目にして初めてのニューイヤー駅伝出場。苦労人が華々しくニューイヤーデビュー。集団から離されるも粘りを見せ10位で最終区の北島選手へ。入賞への望みをつなぎます。

7区…北島選手

入賞争いが激しくなる最終7区。中盤で集団に追いつき6位を6人で争う展開に。ラスト500mまで集団となる大混戦。最後は他社選手のスピードについていけず惜しくも11位でゴール。悔しさをにじませました。



圧巻の走りで見事順位を押し上げた2区 トゥル選手



新人ながら積極的に前を追った5区 大畑選手



ニューイヤー駅伝初出走の6区 林選手

成績（上位順位）

総合順位	チーム名	タイム
優勝	旭化成	4時間 46分 07秒 (大会新記録)
2位	トヨタ自動車	4時間 48分 36秒 (大会新記録)
3位	Honda	4時間 49分 30秒
4位	JR東日本	4時間 50分 40秒
5位	GMOインターネットグループ	4時間 50分 46秒
6位	愛三工業	4時間 51分 32秒
7位	ヤクルト	4時間 51分 33秒
8位	コニカミノルタ	4時間 51分 36秒
11位	安川電機	4時間 51分 40秒

安川電機 各選手の成績

区間	選手名	タイム (区間順位)
1区(12.3km)	高橋 尚弥	35分 14秒 (20位)
2区(8.3km)	トゥル メルガ	22分 04秒 (2位)
3区(13.6km)	野村 峻哉	39分 08秒 (25位)
4区(22.4km)	古賀 淳紫	65分 11秒 (11位)
5区(15.8km)	大畑 和真	46分 50秒 (10位)
6区(12.1km)	林 慎吾	36分 55秒 (18位)
7区(15.5km)	北島 寿典	46分 18秒 (7位)